

## 平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		09 05 06	中期総合計画主要施策番号		2-03,5-06,5-09		担当課	部・課	農政部農地整備課	
事業名		農道整備事業(公共【農道】)				内線		3154		
						E-mail		n o c h i @ p r e f . n a g a n o . j p		
事業の概要等	事業の目的	農村地域において農道を整備し、農業生産の近代化、農産物の流通の合理化、農村生活環境の改善を図る。								
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] 農業機械の大型化を図るための条件整備が必要とされる中、農産物を生産し、運搬するための道路整備が進んでいない。 農業近代化施設の整備や輸送力の増大、高速化による農産物流通圏の拡大により基幹となる農道が必要となっている。 農村環境の面において、都市に比べ生活環境の整備が立ち後れている。								
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] 車社会に対応した地方都市から大都市への物資の流通が円滑に行われるための道路網整備が進む中、農村地域の道路は都市地域の道路と比べ整備が遅れている。								
		[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] 農道の整備を進め、農業生産の効率化及び農産物の流通条件の向上を図る。 併せて農村の社会生活活動にも利用される道路となるよう整備し、農村生活環境の改善を図る。								
	事業内容	・広域営農団地農道整備事業(補助率:【国】50%、【県】50%) ・道整備交付金(交付率:【国】50%、【県】50%) ・農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業(補助率:【国】15/30、【県】8/30、【市町村】7/30) ・一般農道整備事業(補助率:【国】45%~50%、【県】25%、【市町村】30%~25%) ・農道環境整備事業(補助率:【国】45%~50%、【県】25%、【市町村】30%~25%) ・農道保全対策事業(補助率:【国】45%~50%、【県】25%、【市町村】30%~25%) ・農山漁村活性化プロジェクト支援交付金(交付率:【国】50%~55%【県】1.0%【市町村】49.0%~44.0%)								
実施期間	S 4 0 ~		根拠法令等 土地改良法、地域再生法、農山漁村の活性化のための定住等及び地域間交流の促進に関する法律							
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価		
	農業生産の近代化、農産物の流通の合理化、農村生活環境の改善を図る。 「第6次長野県土地改良長期計画」における期間内整備目標 ・基幹的な農道の整備延長 7km(H20~H24) ・中山間地域での農道等の整備 120km(H20~H24)		平成20年度整備目標は次のとおりとする。 ・基幹的農道 1km (目標に対する進捗14%) ・中山間地域での農道等 24km (目標に対する進捗20%)			平成20年度実績は次のとおり。 ・基幹的農道1kmを実施した。 ・中山間地域での農道23kmを実施した。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下		
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	1,502,331	1,772,598	2,228,839	国庫・県単	公共		
	決 算 額 (B)		千円	1,527,210	1,538,235		実施方法	直接		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	22,231	7,360	14,891	歳出節別内訳等	予算現額(最終予算額+繰越額等) 2,110,151		
	概 算 人件費	従事する職員数	人	22.90	20.70	21.60	(単位: 千円)	1地区当り平均事業期間 5.4年		
事業実績	概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	1,527,210	1,538,235	2,228,839				
	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	実施地区数		地区	17	14	12				
	基幹農道整備量		km	3	1	1	20年度完了地区数 2地区			
事業の課題	中山間地域での農道の整備延長		km	17	23	24				
	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明 ・地域からは事業への要望が強い。 ・土地改良法に基づき、県が主体となって実施している事業と事業費の一部を県が補助している事業がある。 ・農業生産や農作物輸送の効率化を図るだけでなく、地域の生活道路や緊急輸送路の位置付けもあり、また地域資源と連携し観光と農業を結びつけた地域振興の発展にも大きな効果が見込まれる。 ・コスト縮減に取り組むとともに、早期効果の発現が図られる箇所を重点的に実施し効率的な整備を行っている。				
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり						
課題の総括		・農産物の流通や農村の社会生活に大きな役割をもつ基盤整備であり、地域からの要望は強い。 ・社会情勢の変化等に対応し必要に応じた見直しを行い、コスト縮減に取り組むとともに、事業効果の発現が顕著な区間を優先し実施していく。								